７月臨時教育委員会議事録

１　開催日　　平成 29 年 7 月 19 日（水）

２　会　場　　大井川庁舎　３階　大会議室

３　開　会　　午後１時 30 分

４　出席委員　　佐藤美与志教育長
　　北川利男委員
　　奥川重子委員
　　山竹葉子委員

５　会議出席者　青島正幸教育部長
　　近藤和人学校教育課長
　　中野直幸主席指導主事
　　池ヶ谷久子学校教育担当係長

　　書記　杉山佳丈教育総務課総務担当主幹

６　議　事　　別紙のとおり

	【午後１時 30 分開会】
佐藤教育長	開会に先立ちまして、大石委員から所要のため、本日の臨時教育委員会は欠席する旨の連絡が入りましたので、よろしくお願いします。地方行政組織の組織及び運営に関する法律第 14 条第３項の規定では、「教育委員会は、教育長及び在任委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない」とされておりますので、本日の出席者は、私を含めて４人となります。過半数の３人を超えておりますので御報告させていただきます。 それでは、只今から７月の臨時教育委員会を開会いたします。本日の議事録署名人は、奥川委員と山竹委員にお願いします。なお、本日の臨時教育委員会には傍聴希望がありましたので、これを認めます。 それでは、早速議事に移らせていただきます。議第７号、平成 30 年度から使用の小学校「特別の教科道徳」用図書の採択について、学校教育課長、説明をお願いします。
近藤学校教育課長	議案の１ページを御覧ください。議第７号、平成 30 年度から使用の小学校「特別の教科道徳」用図書の採択については、志太地区教科用図書採択連絡協議会から同意を求める教科書の採択案の建議がありましたので、御協議をお願いするものであります。
佐藤教育長	教科書採択という公正さが求められる議案となりますので、慎重な御協議、ご審議をお願いします。それでは、事務局から採択案に至る経緯を含めて、詳しい内容の説明をお願いします。
近藤学校教育課長	それでは、只今より志太地区教科用図書採択連絡協議会の採択案を御説明させていただきます。この志太地区教科用図書採択連絡協議会は、教科用図書の採択について必要な調査を行うため、志太地区教科書研究委員会を設置しており、焼津市、藤枝市、島田市の３市から４名の研究委員が委嘱を受けました。研究委員は、終日４日間という膨大な時間をかけて、全ての教科書について調査、研究を行いました。研究は、県の教科用図書専門委員会や各学校からの調査研究報告書などを十分に参考にして進められました。その研究結果は、志太地区教科用図書採択連絡協議会に報告され、採択協議会での協議を経て志太地区教科用図書採択連絡協議会の採択案として、ここに提示されております。その調査結果が、お手元にお配りしてある採択案でございます。 それでは、特別な教科道徳の小学校の採択に関して御説明申し上げます。志太地区教科書研究委員会では、次の３点に沿って研究調査いたしました。（１）学習指導要領改訂の趣旨に沿ったものか、（２）組織・配列・分量について適切か、（３）児童の発達段階への配慮がなされているか、この３つです。まず、各社ごと説明を致します。議案の５ページを御覧ください。１つ目、東書、「新しい道徳」です。

	（１）について、巻頭に「道徳の学習を進めるために」で問題解決的な学習展開が示されています。全学年で「いじめのない世界へ」が明確に位置づけられ、学年始めの人間関係づくりの必要な時期に有効な教材で、改訂の趣旨を踏まえていると思います。ただ、いじめを具体的に扱ったメッセージ等があるとさらによいと感じました。また、他教科や生活との関連が目次にマークで示され、より道徳的価値に迫ることができるよう配慮されてもいます。発問の例示が示されていますが、発問例は２つと少なく、表現が平易です。恣意的にならず教師の裁量による授業展開ができるといえますが、一方、授業を行うに当たって深い教材研究も求められるという側面も指摘できます。（２）について、「これから一年間で学ぶこと」からわかるように、４つの内容項目がバランスよく配置され、情報モラルも児童の発達段階に合わせた内容で設定され、分量的にも適切だと思われます。（３）については、児童にとって身近な題材が多く、また世界や災害にかかわる内容もあり、視野を広げられるよい教材が多いと言えましたが、総体的に読み物資料のため、児童へは提示の仕方の工夫が必要となります。 　次に、学図、「かがやけみらい」です。（１）について、「道徳の学習を始めよう」で道徳の授業イメージを持たせています。いじめについては、「善悪の判断・自律・自由と責任」や「公正・公平・社会正義」という広い観点から複数教材で取り扱っていることが特色です。全般的に、道徳的価値を直接問う発問が多く、児童の価値判断の揺れを起こしにくい傾向がみられました。別冊「活動」はワークシートのような役割で、発問どおりに行えばねらいに迫ることができる構成です。若手教師には指導書的で使いやすいと言えますが、子どもの率直な感想から授業展開させていくような多様な授業構成は期待できない面があります。情報モラルは、「読みものコラム」の中に「言葉・情報モラル」で扱い、各学年１配置してあります。（２）について、４つの内容項目がバランスよく配置され、読みものには、内容項目の分類、価値項目、題名が示され、わかりやすい構成です。同様に別冊「活動」も内容項目ごとになっていますが、児童にとっては、活動ページが題名下に示されているものの、開くページを探しにくいため、使いにくさが出てくると思われます。（３）について、中学年以降、急に教材の分量が多くなること、読みもの教材と別冊「活動」の二つがあることは、児童の発達段階や特別支援教育の観点から、難しさが伴うと言えます。 　次に、教出、「はばたこう明日へ」です。（１）について、巻頭の「○年生の道徳の学習が始まるよ」では、自己の成長を高めるための学習という意図を明示しています。題名前に問いかけがあり、終わりに「学びの手引き」の項をおいて理解を深めるという体裁です。「学習の手引き：ジャンプ」やスキル「やってみよう」では、実演、模擬体験をさせたりして実践の意欲化も図ってもいます。「学びの手引き」があることは、これに沿うことで理解を深めるという側面と授業展開が固定化されてしまう側面があると言えます。いじめについては、「正義の実現のために」高学年や「みんなとなかよくする」という共生のスタンスで扱っていること

	が特色です。（２）について、補充教材を含めて 35 時間分の資料でやや不足感があり、また内容項目ごとの配列は集中的に扱える一方で、偏りも生むと感じました。年間計画で、配列を再考する必要があります。中学校「私たちの道徳」にある教材が６年にあり、その教材は、登場人物の心の葛藤や時代背景を理解する必要を伴い、難しいと思われます。（３）について、文字の大きさや写真、イラストのレイアウトが優れ、見やすく児童が興味を持って学習できる配慮がなされていました。言葉が載っている吹き出しの例示は、考えるヒントになる場合と考える妨げになる場合があると言えます。また、「希望と勇気　努力と強い意志」に関わる教材が多い傾向がみられ、その点が特色ですが、一方で、偏りも感じました。 　次に、光村、「きみがいちばんひかるとき」です。（１）について、巻頭の「道徳の時間は」に、学び方が示され、なかでも、考えることが強調されている構成です。巻末には、他教科との関連が明確に示され、横断的な学習が可能となっています。特に、「考えよう」の発問の質の良さを強く感じました。登場人物の心情を理解するための発問と自分を見つめる発問があり、道徳的価値が明確で、導き方が自然です。さらに、コラムがあることで、道徳的価値を多面的、多角的に考えることができるようなっていることも特色です。（２）について、季節や自然、伝統的な行事に触れることができるよう、１年間の学校生活にそった教材の配列となっています。分量も適切で、終わりには「感謝」が扱われ、他者を意識しながら自己の成長を振り返ることができるような工夫も見られました。いじめ、情報モラル等、現代的な課題も取り上げ、力を入れて各学年とも年間の早い段階で扱うようになっています。児童の日常生活に近い教材を用意したり、読みものだけでなく、漫画や絵で視覚的に働きかけたりする教材等もあり、児童を引きつける工夫がなされていました。（３）について、穏やかな配色で刺激が少ないため、特別支援教育の観点からも配慮がされていることを感じました。低学年では、大きく印刷された一枚絵が両ページあるなど絵本と同様の構成となっていたり、ダイナミックなレイアウトが採用されていたりと、児童が自然に資料に引き込まれていくような工夫がされています。高学年では、グラフや地図なども使われ、具体的に考えることができるよう、発達段階にあわせたています。Ｂ５サイズのため、文字は小さめですが、子どもが手に取りやすい大きさだと言えます。 　次に、日文、「生きる力」です。（１）について、巻頭の「道徳のとびら」「道徳の学び方」で授業に臨む姿勢や学習方法を示し、児童が見通しを持つことができるよう工夫したつくりになっています。４つの内容項目をおき、人とのかかわりの中でいじめを取り上げています。また、情報モラルを扱ったり「心のベンチ」で実践化を図ったりするなど、改訂の趣旨に沿っています。ただ「見つめよう生かそう」の項は、やや抽象的な表現が使われていたり、漠然とした問いだったりして、考える視点としてはやや難しさを感じました。また、この項の問いが道徳ノートにもあり、やっていないとノートが使えない点は課題だと思われました。（２）について、35 時間プラス付録という構成で、付録でも読みものを扱ってい

	るため、分量的には多いと言えます。実態に応じて資料を選択する良さもありますが、扱いには一考を要します。いじめや情報モラル等、現代的な課題を取り上げていて、いじめは巻末でも「いじめ対策」として扱っています。別冊、道徳ノートの配列が、教科書の順番どおりになっているため、学びを積み重ねることができる一方で、１時間の授業で書ききれないことが懸念されました。（３）について、見開き２ページにすることで見やすくし、読みものの世界をイメージしやすくするために、写真や挿絵を効果的に入れています。資料名の後に、簡単なあらすじが載せてあり、場面を把握することに役立つと感じました。特別支援教育の観点からの配慮を感じます。資料には、中学校「わたしたちの道徳」にあるものや国語の教科書にある人物が取り上げられていて、時代背景の理解、国語教材との扱いに苦慮するのではないかと思われました。 　次に、光文、「ゆたかな心」です。（１）について、「さあ、道徳の学習が始まります」等で４つ内容項目を示して授業イメージをつくり、自己形成のための学習であることを押さえています。また、四つ葉マークで「各学年で特に考えたいこと」を３項目程度、命・きまり・伝統文化などを設け、重点化を図っています。「まとめる」、「広げる」を設け、理解から「調べる」、「話し合う」、「発表する」など、段階的に実践化させようとする構成でした。ただ、即実践化が強調されすぎると、内面を育てる道徳のねらいから少しずれる懸念も持ちました。また、６年生では偉人を多めに扱っています。自分に引き寄せて考えるという点では、敷居の高いものとなるということを感じます。また、歴史的背景の理解が必要な人物を扱っていて、難しさも感じました。１年生から「ネットマナー」等情報モラルを扱い、内容も段階的で具体的です。「ソーシャルスキルトレーニング」が各学年位置づけられていることも特色でした。ただ、人間関係づくりプログラムとの重複やソーシャルスキルを道徳教育で扱うべきか否かについては、今後一考の余地があると感じました。（２）について、見開き２ページ構成で、写真や挿絵、吹き出し等で場面の状況を補助するなど、児童にわかりやすいよう工夫されています。ただ、「〇〇さんの生き方から学んだことを話し合いましょう」等、一律的な提示をしているものが見られ、やや雑ぱくな感じが否めません。また、資料の下欄に、発問例が示されているので、考える手がかりになったり、若手教員のサポートとなったりする一方、授業の方向性があらかじめ予測されてしまう面もあると感じました。資料は 35 時間プラス付録で、分量としてはやや多めです。児童の実態に応じて選択することが求められます。（３）について、教科書のサイズが大きいため、文字や写真等で示される情報量が多く、余白も確保されていて見やすいレイアウトとなっています。 　次に、学研、「みんなの道徳」です。（１）について、「道徳の学習が始まるよ」で授業形態や４つの内容項目を示し、各学年ごと価値目標を示しています。高学年では「自分の生き方を考える」学習という前提を示してもいます。各学年重点的な扱いをする内容項目を２つに定め、複数教材を並べて重点化して取り組むよ

	う設定しています。そのうち「いのち」については、どの学年も重点的に扱うようしてあるのが特色です。読みものの後に「考えよう」を設定し、重点教材ででは「深めよう」も入れてある構成は、授業者側からは展開しやすさがあります。「自分が～だったらどうしますか」という発問は、自分のこととして考えさせるのに有効ですが、答えづらさや心情の耕しという点が少し問題が残るのではと思われます。（２）について、35 の教材を配置してあり、分量的には適切です。巻末に他教科との関連が明記してあるのは、広がりを生みます。「いじめ」については、ダイレクトに扱うのではなく、命や人とのかかわり、共生ということから扱い、他社と切り口が異なっていました。情報モラルでは、１年生の段階からから、読みもの資料、図、学級新聞など他面的に具体的場面で考えさせようとした、無理のない程度の扱いでした。（３）について、スポーツ選手等、児童にとって身近な人物が扱われていたり、写真のレイアウトも大胆であったりと子どもの興味をひくものとなっていました。ただ、挿絵は文章とそぐわなく、場面をとらえるには疑問が残るものもありました。低学年資料には台詞のみで、役割演技ができるものがあり、文字情報が少なく、発達段階に配慮していたと言えます。 　次に、廣あかつき、「みんなで考え、話し合う」です。（１）について、現代的な課題に関わる内容が多く取り上げられていました。読みものに登場する多くの主人公が、肯定的な行動を示す安定感のある設定で、模範的なため葛藤が生まれにくいきらいがありました。いじめについては、他社と比較すると、もう少し踏み込んだ内容がほしかったと思います。道徳ノートを活用することで、書くことを通して自分をふり返ることができるつくりです。「学習の道すじ」での発問は、やや高度な問いが多く、児童の思考の広がりにくさを感じました。（２）について、35 時間分の教材に付録３つ程度の構成です。付録は資料的に扱えるものです。道徳ノートを使用すれば、同じ内容項目の感想を比較することで、児童の変容がつかみやすい一方、「学習を広げる」は人物の名言や図書の紹介になっており、実生活に結びつけにくい面が見られました。実在の人物の苦悩や努力を取り上げた教材が多く、じっくり考えさせたい内容が多いと言えました。文字の情報量が多く、情報等の扱いについては、巻末におかれ付録的に扱われています。（３）について、道徳ノートは自由に使えるページが多く、児童の実態に合わせて活用できますが、教科書のページ構成と異なるため使いづらい面もあります。挿絵が落ち着いた色調で、全体的に優しい印象です。文章中に古い言い方、例えば、ちり紙、牛乳配りが使われていたり、歴史的には有名ですが児童には聞き慣れない人物、例えば、新渡戸稲造、二宮金次郎が扱われていたりと、児童の興味や共感が得られにくいと思われました。 　選定についての基本的な考えを述べます。今回の「特別の教科道徳」の教科書選定において最も考慮されたのは、志太地区の子どもたちが使いやすく、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習をすることが、効果的にできるか、とい

	うことです。また、児童の発達段階への配慮がなされ、日常的事象が教材化され、児童が問題意識をもって、考えたり感動を覚えたりするような充実した教科書であること。また、指導者にとっても教材の本質を捉えやすく道徳的価値に添って効果的な授業展開や活用が図りやすい教科書であることが判断基準とされました。検討の結果、志太地区で使用することに最も適した教科書は、光村図書、「道徳　きみがいちばんひかるとき」であるという結論になったことが報告されております。１内容、２組織・配列・分量、３児童の発達段階の考慮という３点について、報告を致します。議案の４ページを御覧ください。１内容、巻頭には、道徳科の授業の在り方が示されており、児童も教師も、学習の進むべき方向をきちんととらえた上で、年間の学習を始めることができるようになっています。なかでも、「話し合って考えよう」、「演じて考えよう」、「読んで考えよう」、「書いて考えよう」の４点を明記し、「考え、議論する道徳」を推し進めるための具体的な方法が明確に示されている点が特徴で、特に考えることが適切に意義付けられていると言えると思います。資料一つ一つには、キャラクターによる問いかけや「考えよう」、「つなげよう」に、それぞれ発問例が用意されて、ここでも学習の方向性が示されています。発問例は、人間の弱さに触れ、それを認めつつ、一歩でも価値を高めていこうという目線で設定されていて、児童が受け入れやすいものとなっていて、研究委員会ではこの点が高く評価されていました。35 時間の授業時間に対して、時期・季節に応じて内容項目が選ばれ、バランスよく資料の配置がされ、教材とコラムが組み合わされたユニットも設定されています。問い掛けも、児童の親しみやすい「話し言葉」が用いられており、自然な形で授業の流れがつくり出されるよう工夫が見られました。巻末には、「先生方へ」と題した一覧表があり、内容項目や主題、現代的な課題等との関わり、他教科・領域との関連が示されていて、横断的に教科等との関連を捉えやすいものとなっていました。２組織・配列・分量について、季節の自然や伝統的な行事に触れることができるよう、１年間の学校生活に添った教材の配列となっています。分量も適切で、終わりの時期には、「感謝」が扱われ、他者を意識しながら自己の成長を振り返えられる構成上の工夫も見られました。また、今回の学習指導要領改訂の基本方針にもある「いじめの問題への対応」にも重点が置かれ、各学年とも年間の早い段階で「いじめ」、「節度・節制」を扱い、一年間のよきスタートを支える形となっています。さらに児童の日常生活に近い教材を用意するなど工夫がされています。低学年では、大きく印刷された一枚絵、絵本と同様の構成となっている資料があり、ダイナミックなレイアウトが採用されて児童の興味を引くものとなっています。また、３年生以上には「なんだろう、なんだろう」と題した漫画に代表される、身近な生活場面を取り上げた、しかし哲学的な要素もある興味深い資料が掲載され、児童が自然と手にとって読みやすいよう用意されています。このように、全体的に、問い掛ける読み物や漫画、詩や人物による言葉、そして、大きな絵や写真というように多様な表現方法を用いて、児童の意欲を高めるしかけがされている点が、大

	きな特色です。３児童の発達段階への配慮、キャラクターの問い掛けや発問例に考えたくなる工夫がしてある点が特徴です。その柔らかな表現により、自然に道徳的価値について考えることができます。教材は、その年代で起こりうるような身近な事象を扱っていて、発達段階も十分に考慮されていました。全体的に、穏やかな色調で、視覚的な刺激は少なく、特別支援教育の視点からも配慮がなされていました。低・中学年においては、絵本の挿絵が効果的に掲載されていて、子どもが話の世界に入りやすい工夫がなされていました。高学年においては、グラフや地図等の活用があり、具体的に考えることができるよう、各発達段階にあわせた資料と言えます。言葉の精選度が高く、児童の心に自然に入っていくような言葉が使われており、その点では他社を抜きんでていると思います。以上で私からの説明を終わります。
佐藤教育長	事務局から８社の道徳の教科書について、選択基準の３点に沿って説明がありました。そして、それに基づいて、志太地区の採択案についての最終的な説明がありました。委員の皆さんから御意見や御質問等がありましたら、よろしくお願いします。なお、お手元にそれぞれの本も置いてありますので、それを参考にしながら、時間をとりますので、何かありましたらお願いします。
奥川委員	感想になると思いますが、よろしいでしょうか。
佐藤教育長	お願いします。
奥川委員	今、それぞれの会社の良い所、そして、こういう所をもうちょっと考えた方が良いよという説明をいただきました。大変丁寧な説明をいただいて、分かりやすいなと思いました。全体をそんなに見る暇はなかったですが見させていただいて、道徳って素敵な教科だなと思いました。私たちが人として生きるときに大事なものをいっぱい含んだ教科で、それぞれの会社が本当に真摯に考えてくださって、教科書を作ってくださったなという感想を持ちました。そういう中で、どれが良いのかということは直ぐに直ぐ決められませんが、その評価の中で確かにそうだよなと思うことがいくつかあったし、評価されなかったけれど、私はこう思うよということがありました。１点は常に子どもたちがこれを見るということは、心に響くものであろうと思います。他の教科もそういう点はあると思いますが、心に残った感動というものが生活を豊かにしていくと考えると、教科書の表紙もとても大事なのではないかと私は思いました。そういう中でやはり教育出版社とか光村さんのように柔らかい色合いで何か子どもたちがぱっと手に取ってみたくなるような雰囲気というのは良いなということを考えました。それと、光村さんの教科書には「きみがいちばんひかるとき」が、道徳と書いてあるその下に書いてあり、どこの学年にもこれはあるのですが、教育出版社は「はばたこう明日へ」

	とありますが、それぞれの教科書会社がただ道徳だけではなく、子どもたちへ訴えたいことを副題として付けているということは良いなと思いました。その中で、私は光村さんの「きみがいちばんひかるとき」というのが、道徳の教科書にあっているなという感じが致しました。感想ですみません。それから今、１年生の教科書を見させていただいたときに各会社が道徳っていうものを大事にしようということで、道徳って今まで国語とか算数とかという言葉は聞いたことがあるでしょうが、１年生に上がる子どもたちが道徳って何と聞いたときにこういう教科だよっていうことが分かるようなページをどこの会社も作ってくださって、これは良いなと思いました。それと、ちょっと違うのですが、例えば、あかつきさんがその中に入る前に、はじめの一歩と友達大好きとか、光村さんのこの最初のところとか何か１年生だけではなくて、みんなが見てみたいな、読んでみたいな、みんなが声を出して読んでみたいなというようなページで、やはり道徳としてふさわしい構成になっているのかな、最初に形というよりは心にまず訴えてみようという意図を感じました。そういう意味で、それぞれの会社の良さがあると思いましたが、今、自分はそんな感想をもってそれぞれの会社がそれぞれの良さがあるんだな、道徳って素敵だなと思ったことを伝えさせていただきます。
佐藤教育長	ありがとうございました。それこそ、選択基準の中に児童生徒の発達の段階に則してという話がありまして、私もそういうことから考えて単純なことですけれども写真や絵などで柔らかいものを使っている本というのは結構大事だなと、よく乳幼児の絵本なども図柄が非常に柔らかくしてあるという、これはやはり子ども向けにははっきりとした絵よりも柔らかいものの方が子どもたちは受け入れやすいのではないかなと、発達障害などの子どももいるものですから、そういうものを活かしている教科書会社というのは大事ではないかなと思いました。奥川委員から副題が目的のような形で、ただ単純に道徳というだけではなくて本当に分かりやすい副題がある会社が良いという話がありましたけれども、他の委員はどうでしょうか。北川委員、もしありましたらお願いします。
北川委員	なかなか、どれが一番かというと私もそれだけの知識がないのですが、今、説明を聞いているなかでは、光村の教科書を見て一番気に入ったのが「きみがいちばんひかるとき」、これがすごく良いですよね。何か子どもが将来に向かって希望を持たせるようなこういう文言がありました。道徳というと頭に浮かんだことを申し上げますと、大人の価値観を押し付けたり、教えすぎるようなものではないと思います。今、各社の説明を聞いて、どの出版社もそれはないなということで安心しました。考えさせるということが何回も説明の中でありましたけれども、やはり子どもたちに興味を持たせるために具体的な事例を出して議論をさせる、そういう中で人間として何が一番大切なことかということをよく考えさせて、身に付けることが大事なのではないかと考えます。そういうことで、各社も工夫し

	てやられていると思います。時間のない中で気に入ったのが光村のこのタイトルにすごく惹かれました。そんなことを思いました。以上です。
佐藤教育長	北川委員さんから価値を押し付けるようなことは良くないだろう、考えさせることが大事であるという話があったのですが、新しい道徳教育の目標の一つに自己の生き方を考えさせる、主体的な判断のもとに行動させるなどの目標があることから、そのような本が出ているのではないかと思います。 山竹さんはどうですか。なかなかこういったものを見る機会は少なくて、突然見ても判断しづらいと思いますが。
山竹委員	サイズ感では確かに光村が一番持ちやすいと感じました。それと、先生方が教えるのに、書きすぎてもいけないし、書かなすぎてもいけないしというのがあるのだろうなと思います。それで、色々な点で選定していただいたのだろうなと思いました。
佐藤教育長	光村さんだけ版が小さいですが、逆にそれが子どもにとって良いのではないかという意見が先ほどの説明にもありました。 他にありますでしょうか。大石委員さんは、今日は欠席されているものですから、３人の方からの意見を一通り伺いました。
奥川委員	ノートについて、自分の考えの足跡を作っていくという意味ではとっても良いと思うのですが、ただ、皆さん張り切りすぎてしまっているという気はします。例えば１年生のノートがこれだけ厚いと、これに書いていないと「何、やっていないの」、という感じに捉えられてしまうのではないのかなという感じがします。考えて友達と話をして自分の考えを深めて、１時間終わったときに何か足跡を作りたいという意図はとても大事だろうし、高学年になれば書く力も増えてくるから書くことも良いと思うのですが、ノートの良さというのは、集積をして自分の考えを後で振り返ることができるというプラス面はありますが、やはり時間を拘束してしまうというか、少ないたった１時間の授業の中で書かなくてはいけないとかということがあると、ちょっと大変だなということは思いました。そういう意味では光村さんが別冊を作っていないということは一つ、そこに意図があるかなと私は思いました。だから、ある意味で今日はといったときに先生がどの様にこの子たちの足跡を作っていってやるのかと、中にはこういう例がありますと書いてあるところもありますけれども、教師と子どもで工夫したその時間の足跡づくりというのもできるのかなということを感じました。だから、道徳の教科化というのは今度が初めてですので、これが積み重なっていくとやはりこういうのはベテランの人には良いけど、初任者にはつらいよとか、いろいろ出てくると思いますので、一概には言えないと思いますが、今はどちらかというとそういう光村

	みたいな形の方が担任と子どもたちで作り上げる道徳という意味では良いのかなという感想を持ちました。
佐藤教育長	ノートがあるとそれによって縛られてしまうというイメージがありますよね。先生と子どもによっては色々な使い方ができるほうがむしろ使い勝手が良い、特に小学校の低学年だと書く力がまだないものだからそれに時間をとられてしまい、肝心な45分をそちらに使わなければならなくなりますので、貴重な御意見ありがとうございました。 他にありますでしょうか。奥川委員さんからは元教師としての視点からの裏づけられた御意見をいただきましたし、北川委員さんと山竹委員さんからも、それぞれ一般的な感想として御意見をいただきました。 それではよろしいでしょうか。議第７号についてお諮りします。「平成 30 年度から使用の小学校「特別の教科道徳」用図書の採択については、志太地区教科用図書採択連絡協議会の採択案に同意する」ということで、御異議はございませんか。
全委員	異議なし
佐藤教育長	それでは、３人の委員さんから同意するという意思がありましたので、当委員会は志太地区教科用図書採択連絡協議会長へ同意書を提出することにいたします。事務局はこの後、同意書を提出してください。 以上で、本日、予定していた議事は、全て終了いたしましたので、７月臨時教育委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。 【午後２時 14 分閉会】